

11月23日

殉教者主教ローマのクレメント

Clemens Romanus

(?～100頃)

～クレメンスの第一の手紙～



神品到命者ローマの

「パパ」クレメントの

アイコン

人名辞典などでは、クレメンス 1 世と表記される彼は、エイレーナイオスの「異端反駁」によれば第三代(第四代とする説もあり)のローマ教皇である。この時期のキリスト教会は使徒たちが次々に殉教の死を遂げていき、直接イエスと関わったことのない人たちによる聖伝の時代に入る。つまり使徒時代とのつながりという点で、後の教会の伝統に大きな意味を持つ時期であった。

95 年～96 年頃、使徒パウロが建てたコリントの教会は荒れていた。教会の中に様々な党派が生まれ、司教や司祭に対する反対運動まで広がっていった。そして多くの聖職者たちはコリントの教会から排斥されてしまう。信徒の直訴を受けてクレメントは、初めてのローマ教皇による回勅ともいうべき「クレメンスの第一の手紙」を書き送る。そこには、理由もなく排斥された聖職者を再び迎えるように進言し、互いに謙遜を学ぶようにとすすめた。まさに彼の名「クレメント」の意味(温和な、情け深い)どおりの対応をした。この手紙は使徒教父文書と呼ばれ、1 世紀末のキリスト教会の状況を伝える歴史資料となる。またこの手紙は、ローマ教会の式文やカトリックの教職理解に大きな影響を与えた。特にローマ教皇の首位権を主張しその権威が神から使徒を通じて受け継がれたも

のであるとした。

彼は手紙の中でペトロとパウロの殉教について触れたが、彼のことをパウロの同労者だとか、ペトロの助手だとか、皇帝家の顧問であったなど様々な伝説があるが、信憑性に乏しい。さらに他にも彼の名前を冠した手紙や文書があるが、これも本人のものだとは考えにくい。だがこれらのことは、クレメントが初代教会にどれほど受け入れられていたかを証明するものとなるだろう。

彼の最後は確かには伝わっていないが、トラリアノ皇帝のときに迫害され、奴隷としてクリミア半島で労働させられたという説がある。その後、彼は首にいかりをつけられたまま海に投げ込まれた。しかし、すぐに水がひき、彼の亡骸が海底にある大理石の墓地に入ったという。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教ローマのクレメントに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン